

中日ニュース

第二〇五号 内容

高野新三九

1957年

— 一九五七年の歩み —

32.12.26

★ソヴェトからテボシャン初代大使がやって来ると、アメリカも、マッカーサー大使を送りこんでこれに対抗。石橋さんの発病で思いがけない政權を拾った岸さんは三悪追放をひっさげ岸ブームを捲えようと派手な全国遊説。こうして五七年はスタートしました。

★ことしも台風のために九州北西部や東海地方に大きな被害を出しました。 〃神武景気〃もドル不足から不景気に一変。戦後最大といわれた春斗は国民の足を奪つたことから、世間の風当りも国鉄労組には強かつたようです。

また、先生の勤務評定実施強行は政府と日教組との対決として注目されています。

★相次ぐ汚職事件の中でも、全購連の肥料代金にからむ不正。売春禁止法をめぐる汚職。いずれも又かという国民の大きな不評をかいました。

腰のかるい岸さんは三度にわたつて外遊。アイクとゴルフ会談では、米軍撤退とひきかえに自衛力の増大を約束して来ました。

★世界に話題をふりまいた相馬ヶ原事件は、いたずら半分に農婦を射殺したジラードに執行猶予を判決。撤退する米兵と別れる日本婦人や混血の子供などやつかいな置土産が、残されています。

★大国の原爆実験は次々と続けられました。夏には反対運動も最高頂にたつし、モスクワの世界青年平和友交祭、広島の前爆慰霊祭、原爆禁止世界大会と何度も抗議はつづけられました。十二年前のいまわしいあの一瞬のために、いままなお尊い生命が失なわれていくのです。

★ことし一番のニュースはソ連のスパウトニク打上げの成功です。生物が宇宙を飛んだことは画期的なことで、人類は宇宙時代の第一歩をしるしました。

これに対しアメリカのパンガード・ロケットは無惨にも失敗。アメリカはソ連に軍事力でもだし抜かれたのです。

★この重大事態に対処するためにNATO首脳会議が十二月パリで、アイゼンハワー、マクラミンら各国首脳が集まり開かれました。アイクはミサイルや核兵器を提供したいとのベソヴェトに対抗するために、団結を強調しました。こうして宇宙時代を迎えた東西対立の谷間でやがて一九五八年は始まろうとしています。